

クリーニングの不具合

衣料の性質が原因も

(2014年10月7日掲載原稿)

クリーニングした衣料の不具合は店のミスでも生じますが、衣料のもともとの性質による場合や、自宅での保管状態で生じたと考えられるものもあります。

1 色泣き

上半身部分が白で、スカートが黒のワンピースをクリーニングに出した。すると白い部分に黒い色がにじんだようになった。

これは日光や洗濯などの外的条件に対する染色の丈夫さ、つまり堅ろう性が十分に確保されていなかったことが原因。濃色と淡色を組み合わせた衣料では濃色部分の染色の堅ろう性が低いと、染料がにじみ出て、淡色部分を汚す「色泣き」が生じることがあります。

2 合成皮革

4年前に購入した合成皮革のジャケットをクリーニングに出したら、ポロポロ剥げたようになった。

これは合成皮革に使用されたポリウレタン樹脂が空気中の水分や熱により、加水分解という現象を起こし、経時的に劣化したのが原因。クリーニングをきっかけに剥離したり、保管中にベトベトになったりすることがあります。ポリウレタン樹脂の経時劣化は避けられず、その寿命は一般的に2～3年ほどとされています。

3 染料が分解

綿のコートをクリーニングに出したら、肩の辺りの色味が薄くなった。

これは着用中や保管中に受けた太陽光や蛍光灯などの紫外線の作用で、染料が分解したことが原因。汚れが目立たなかったのが、汚れが取れたことで変化した部分が明瞭になったものです。

クリーニングした衣料の不具合に気付いたら、なるべく早くクリーニング店に連絡し、その状態を確認してもらった上で説明を求めましょう。